

お釈迦様の時代、雨期に外出を禁じ、坐禅を中心とした修行に集中的に取り組んだという故実の下に、夏と冬の年二回、三か月間の修行生活をおくる「安居」の開始に合わせ、その修行生活を共にする修行僧の名前を板に記して掲示する習慣が禅の修行道場では行われてきました。この掲示板を戒臘牌かいろうはいと言います。役職の上下に依らず、戒かいを受けて僧侶となった年数である戒臘かいろうに応じて名前が書き連ねられるという所から戒臘牌と名付けられました。

この戒臘牌を細長い和紙に書き写したものが円鏡えんきようと呼ばれます。これに三ヶ月の修行期間が無事に終わった証明の署名と捺印がなされ、安居の終わりにリーダー役の僧である首座しゆそに手渡されるのです。

さてこの戒臘牌、円鏡の図はとても特徴的な図柄をしています。中心には修行僧たちを意味する「清そう 浄じよう大たい 海かい 衆しゆう」と記され、その下には鏡を象徴する円が描かれています。仏教ではお釈迦様のお悟りを丸鏡や円で象徴します。そこには常に自らの心の鏡に照らして修行を進めよという戒めも込められているのかもしれませんが。そしてその円の下には僧堂そうどう(坐禅や食事を行う修行の中心となるお堂)の御本尊様である文殊菩薩もんじゆぼさつのお名前や、お釈迦様の最初の弟子である陳如尊じんによそんじや者のお名前が記され、その右側に住職から順次反時計回りに修行僧全員の名前が円を囲むように長方形に書き連ねられていきます。

またこの図の四隅には、「元げん・亨こう・利り・貞てい」という漢字四字も記されています。右下の隅の「元」は万物の始めの春。思いやりの徳。右上の隅の「亨」は万物の成長を促す夏。礼節の徳。左上の隅の「利」は万物の良き稔りの秋。正しき姿の徳。左下の隅の「貞」は万物の完成の冬。智慧の完成の徳。以上漢字四字で修行僧とし

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

での成長と、その修行を見守る世界からのご加護を象徴しています。

これから始まる三か月間の安居にはきっと様々な出来事が起こることでしょう。違う考え方を持った修行僧たちをまとめ、それぞれの修行を進展させていくために、リーダー役の僧である首座は色々と心を砕かねばなりません。そのお蔭もあって三か月間の安居を終えた修行僧たちは一回りも二回りも大きく成長を遂げます。特に一番苦勞の多かった首座は、その証明書である円鏡をどんな思いで手にすることとなるのでしょうか。

安居の時の様々な苦勞は、手渡される円鏡を通じて、これから僧侶として歩いていく上での一生の宝を必ずやもたらしてくれるはずです。

— 終 —